

平成28年度

男女共同参画に関する市民意識調査

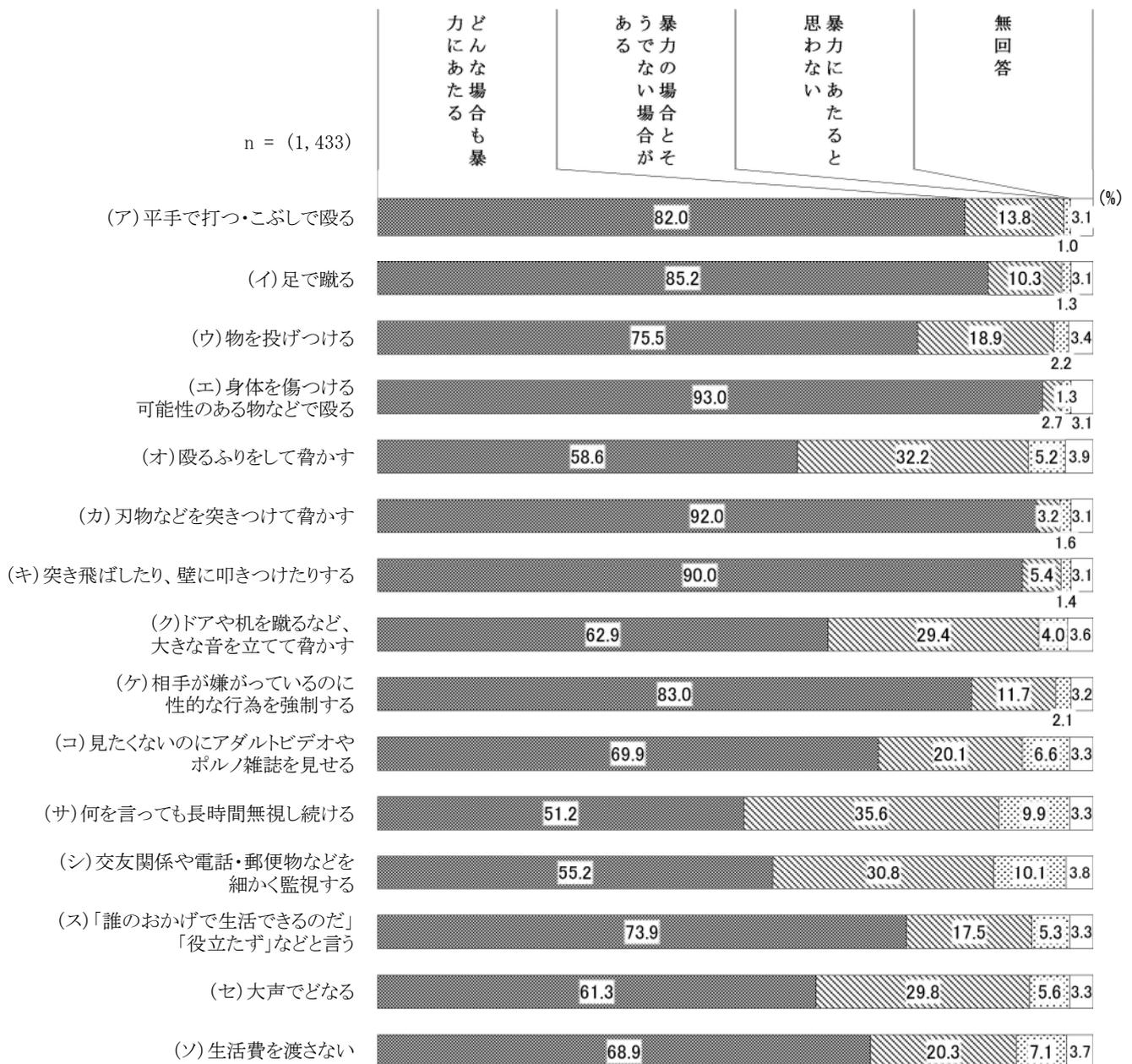
報 告 書

川 口 市

7. 男女間の暴力について

(1) 暴力についての認知度

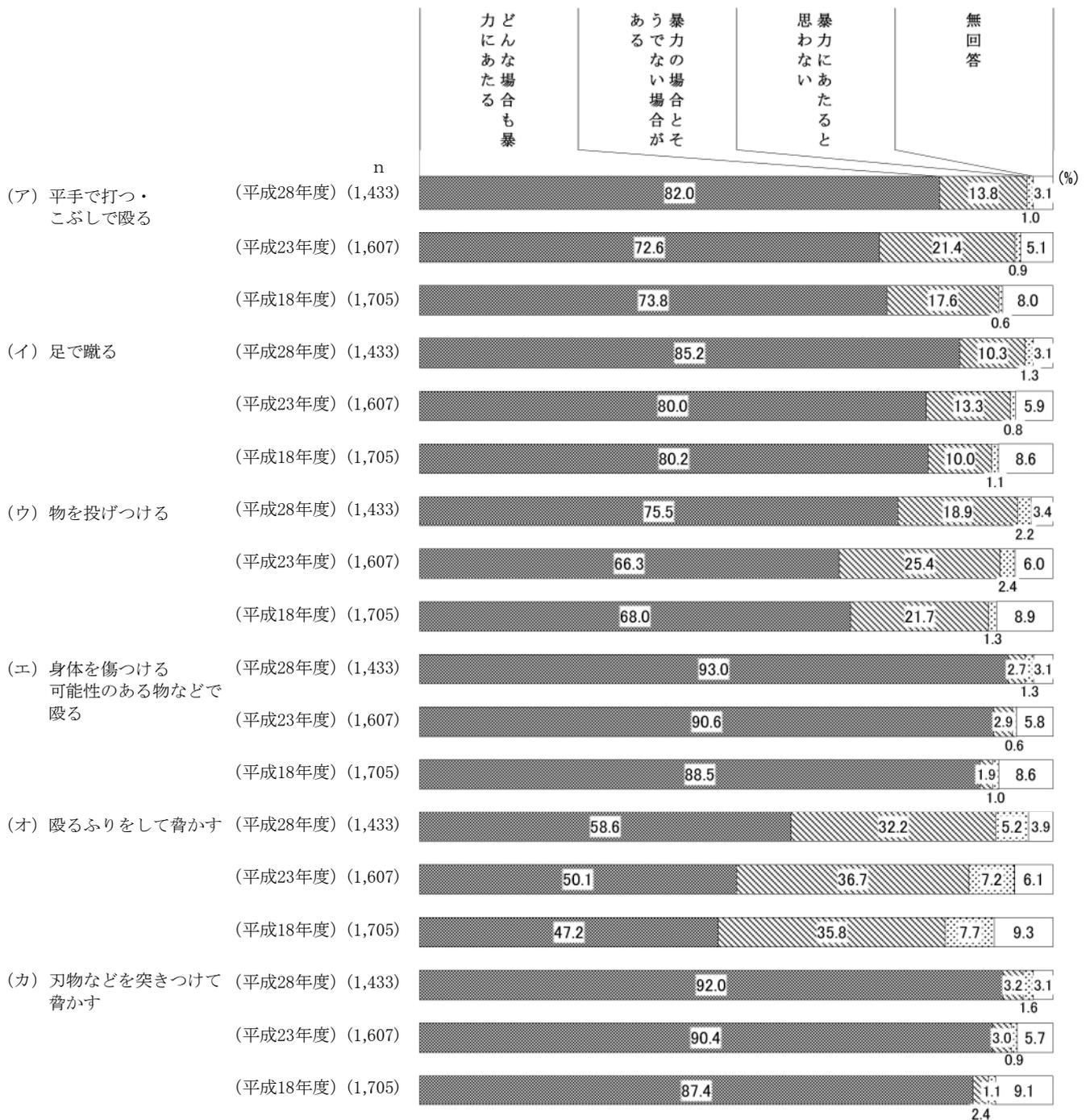
問17 あなたは、次のようなことがパートナー（夫婦・恋人）間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。それぞれについてあてはまるものを1つずつお選びください。



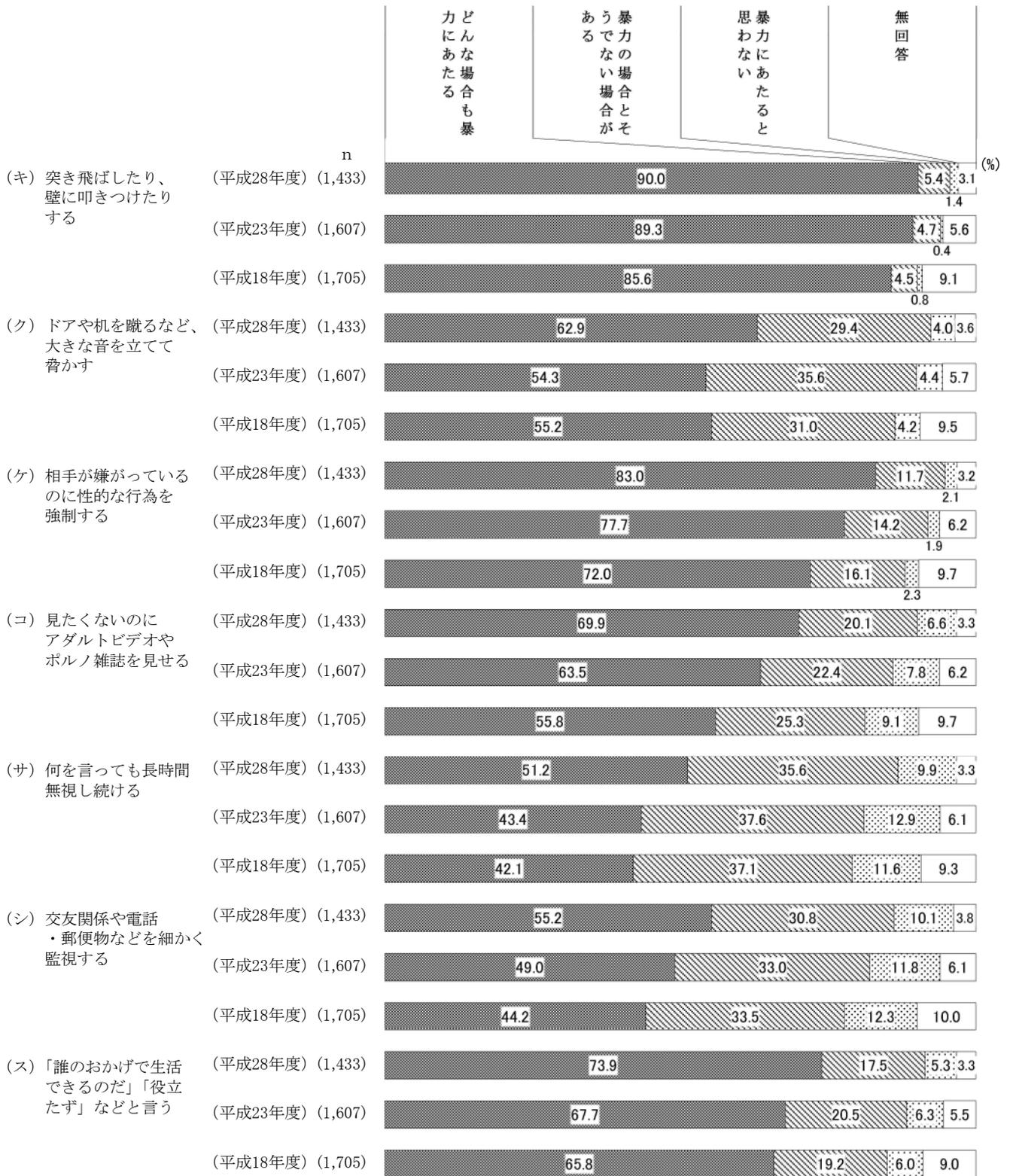
15の行為が暴力にあたるかどうか聞いたところ、「どんな場合も暴力にあたる」は【身体を傷つける可能性のある物などで殴る】が93.0%で最も高く、以下【刃物などを突きつけて脅かす】(92.0%)、【突き飛ばしたり、壁に叩きつけたりする】(90.0%)、【足で蹴る】(85.2%)、【相手が嫌がっているのに性的な行為を強制する】(83.0%)の順で続いている。

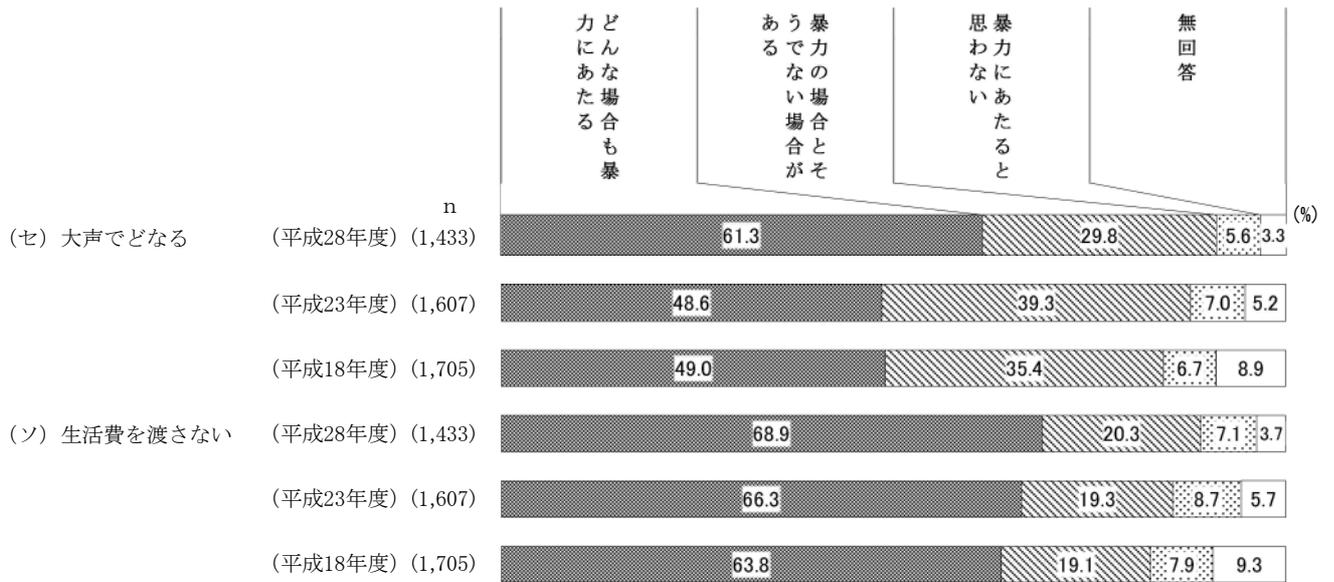
【経年比較】

平成23年度の調査結果と比べると、「どんな場合も暴力にあたる」は、いずれの項目でも増加している。その中でも【大声でどなる】が12.7ポイント、【平手で打つ・こぶしで殴る】が9.4ポイント、【物を投げつける】が9.2ポイント、【ドアや机を蹴るなど、大きな音を立てて脅かす】が8.6ポイント、【殴るふりをして脅かす】が8.5ポイント、【何を言っても長時間無視し続ける】が7.8ポイントと、大きく増加しているのが特徴的である。



第2章 調査結果の詳細

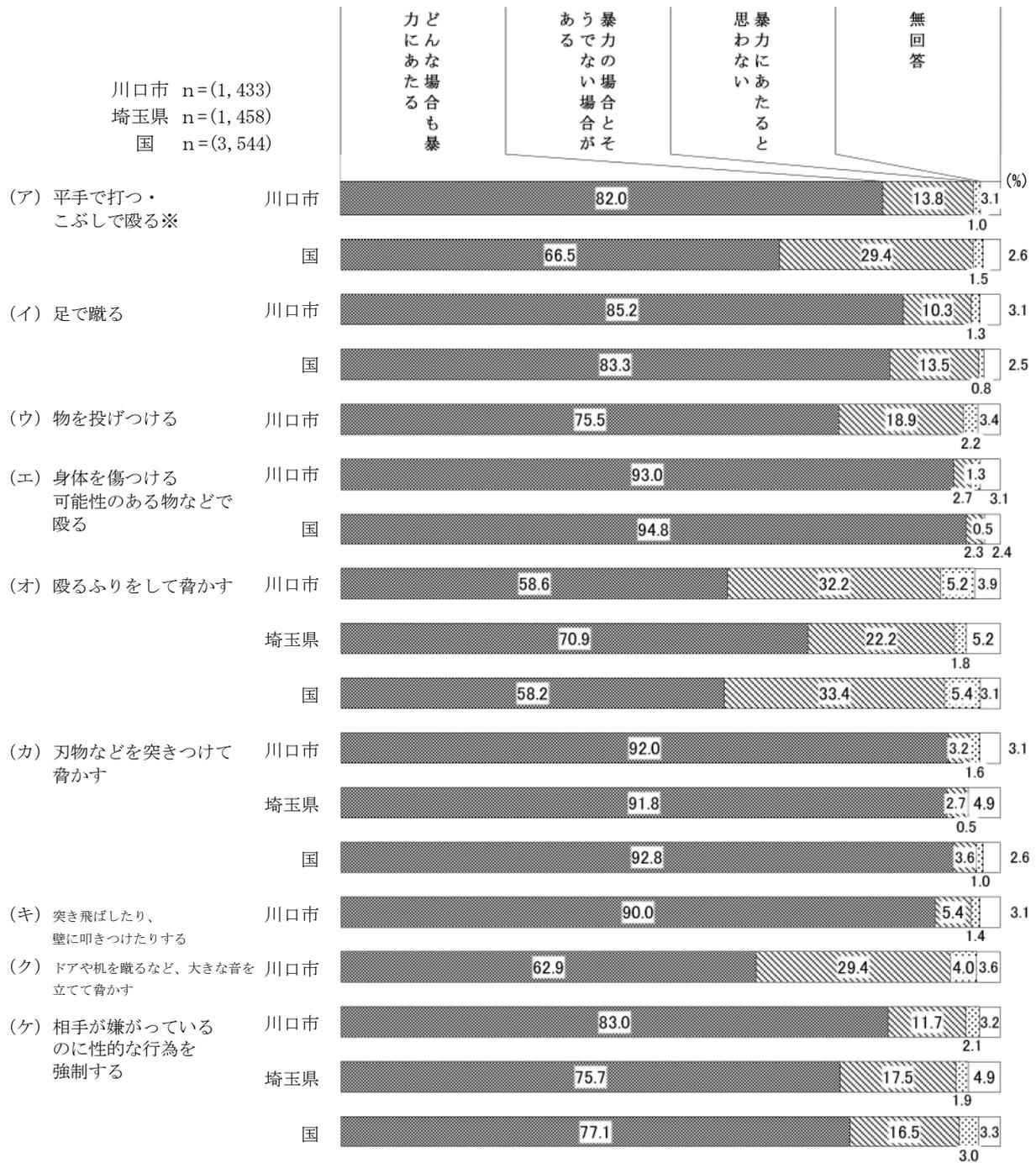




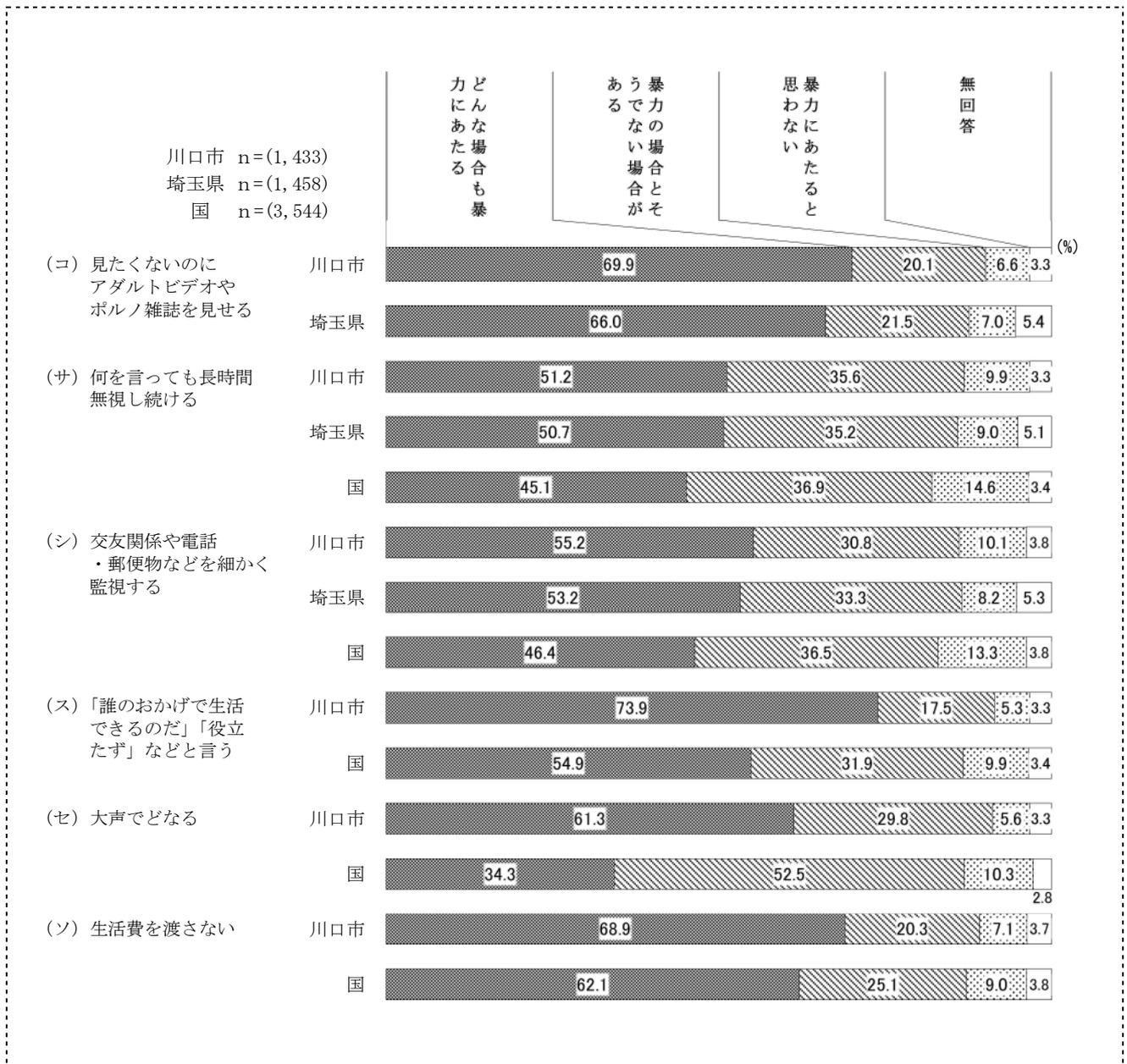
【参考 - 埼玉県 平成27年度 男女共同参画に関する意識・実態調査

内閣府 平成26年度 男女間における暴力に関する調査】

(川口市が「パートナー(夫婦・恋人)間で」という設問に対し、埼玉県、内閣府は「夫婦(事実婚・別居中含む)間で」という設問)

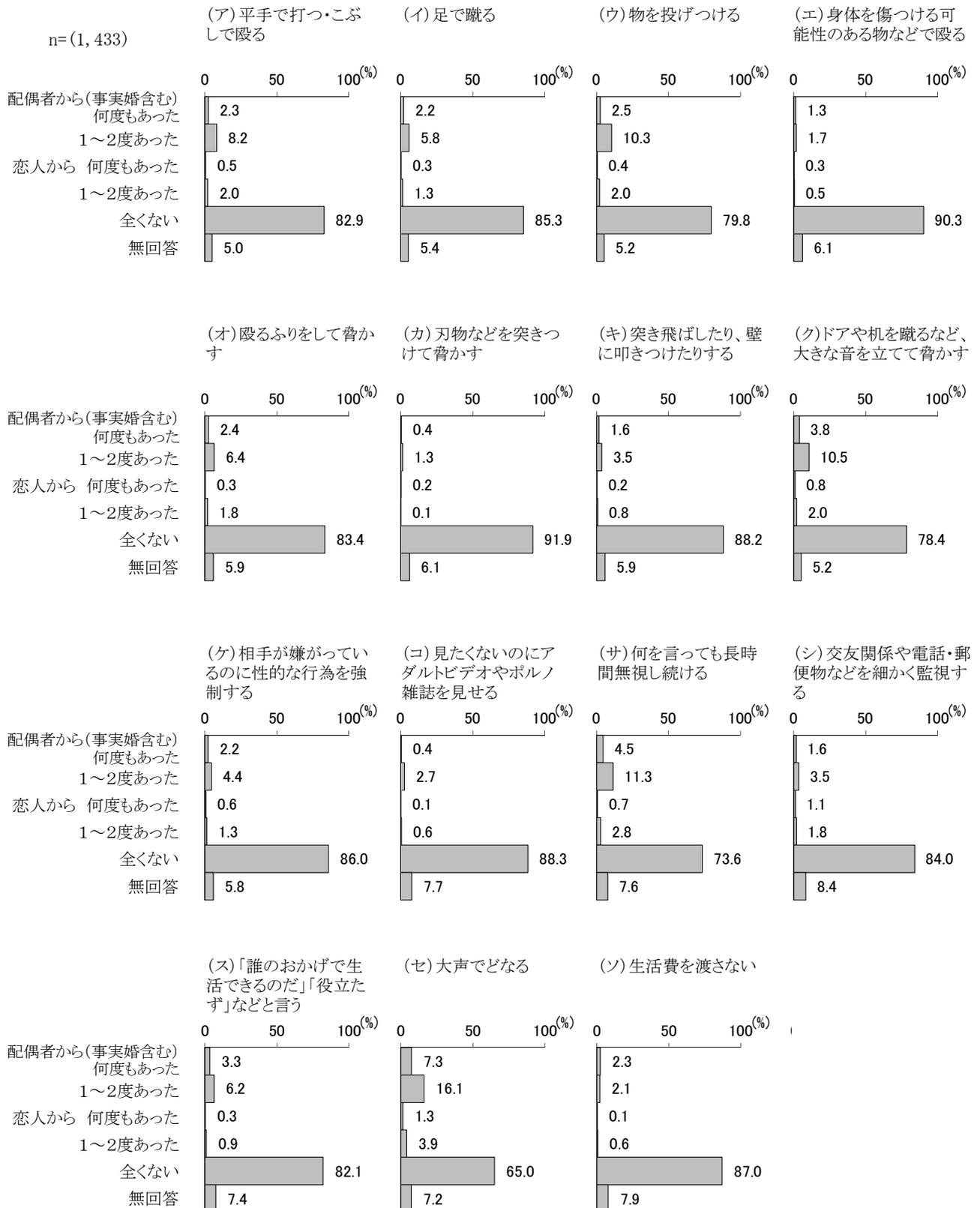


※国は「平手で打つ」



(2) 「暴力にあたる」と思う行為を、パートナーから受けた経験について

問18 あなたは、次のような行為を受けたことがありますか。それぞれについて、あてはまるものをお選びください。配偶者と恋人両方から受けたことがある場合は、両方について頻度をお答えください。

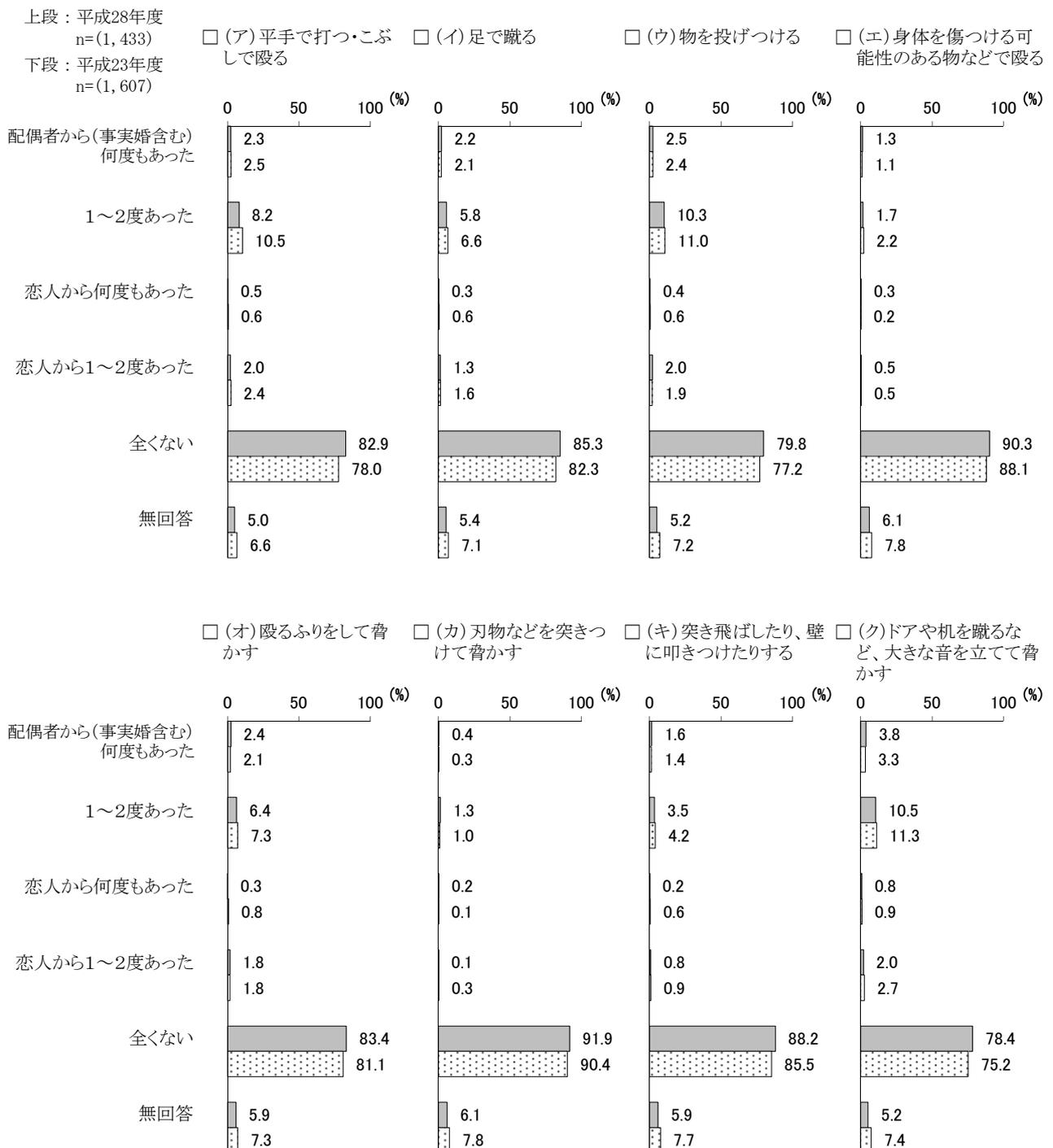


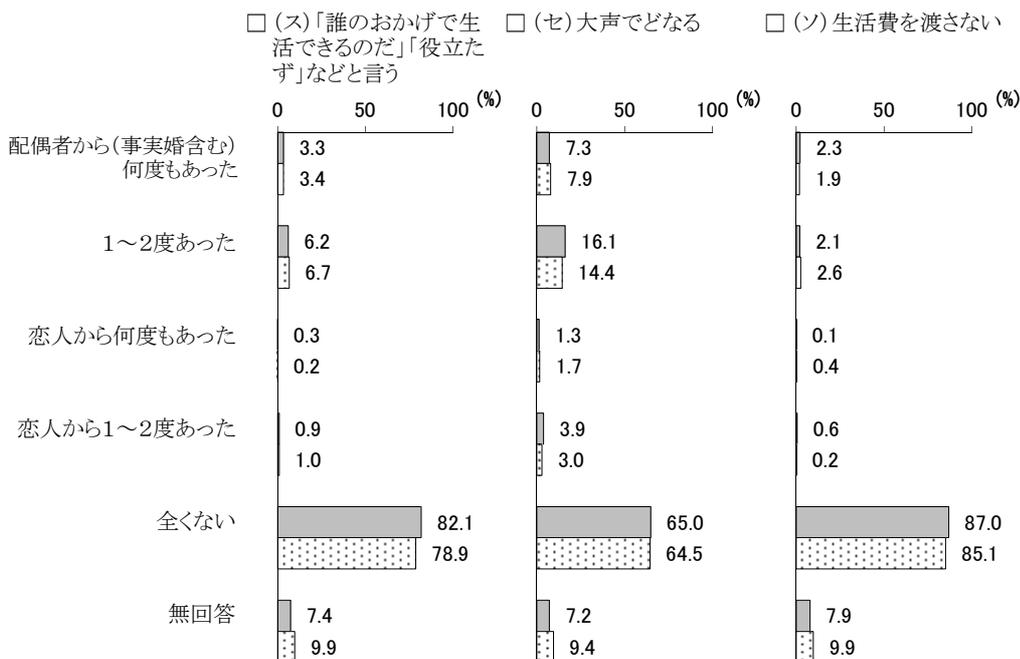
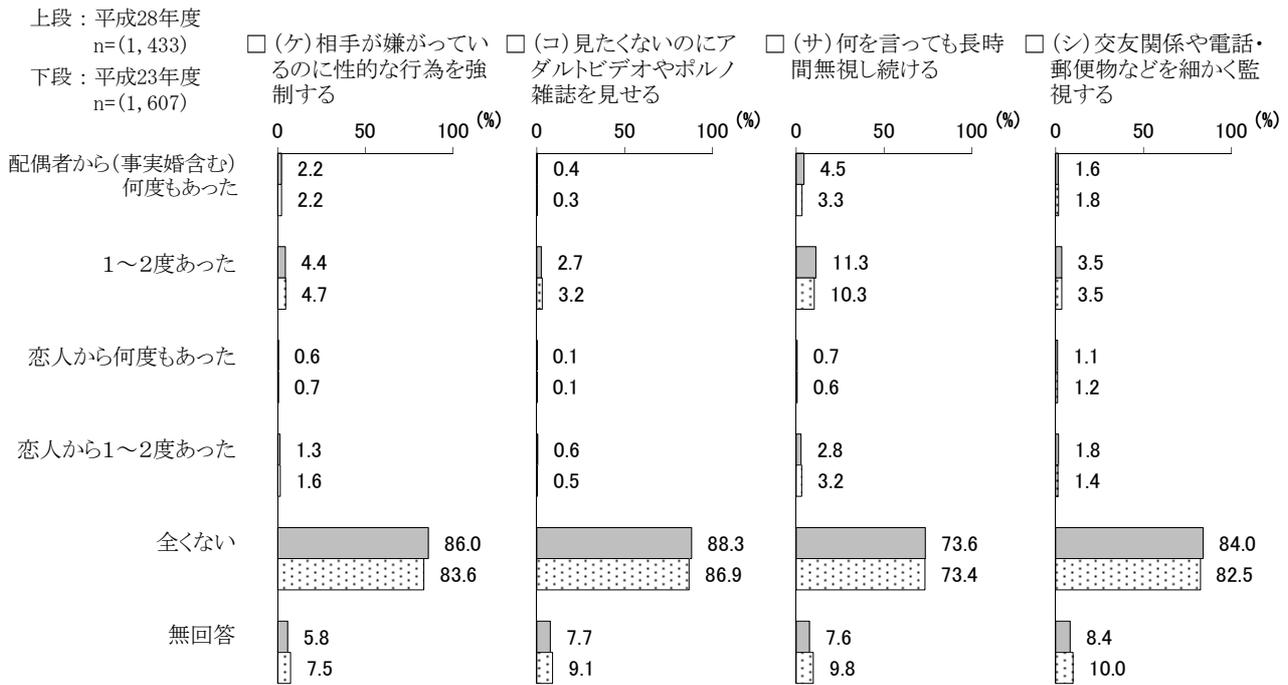
第2章 調査結果の詳細

15項目の行為を受けた経験の有無を聞いたところ、「何度もあった」と「1～2度あった」を合わせた《経験がある》は、「大声でどなる」(配偶者から23.4%、恋人から5.2%)が最も高く、以下「何を言っても長時間無視し続ける」(配偶者から15.8%、恋人から3.5%)、「ドアや机を蹴るなど、大きな音を立てて脅かす」(配偶者から14.3%、恋人から2.8%)の順で続いている。

【経年変化】

平成23年度の調査結果と比べると、上位項目に大きな変化はみられない。





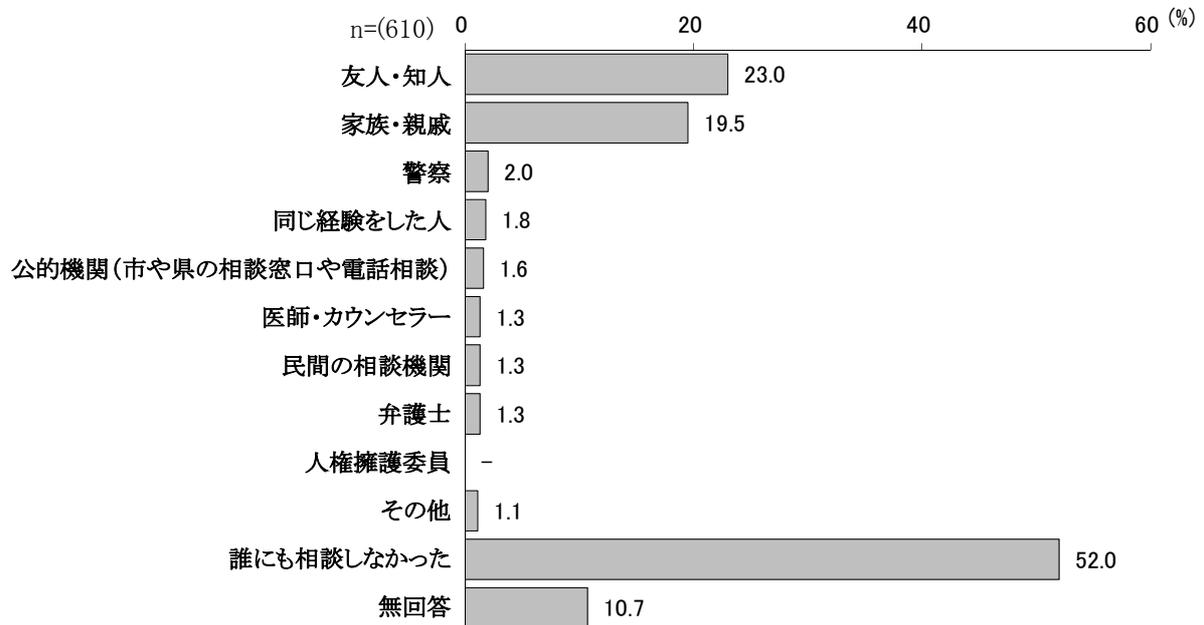
【性別・性／年齢別】

性別でみると、「大声でどなる」については、配偶者から《経験がある》は女性で27.6%と、男性(17.4%)より10.2ポイント高くなっている。また、女性では「ドアや机を蹴るなど、大きな音を立てて脅かす」が10.0ポイント、『誰のおかげで生活できるのだ』『役立たず』などと言う」が8.9ポイント、男性より高くなっている。

性／年齢別でみると、「大声でどなる」は配偶者から《経験がある》が40歳代、60歳代の女性で3割を超えている。

(3) 「暴力にあたる」と思う行為を受けた際の相談相手について

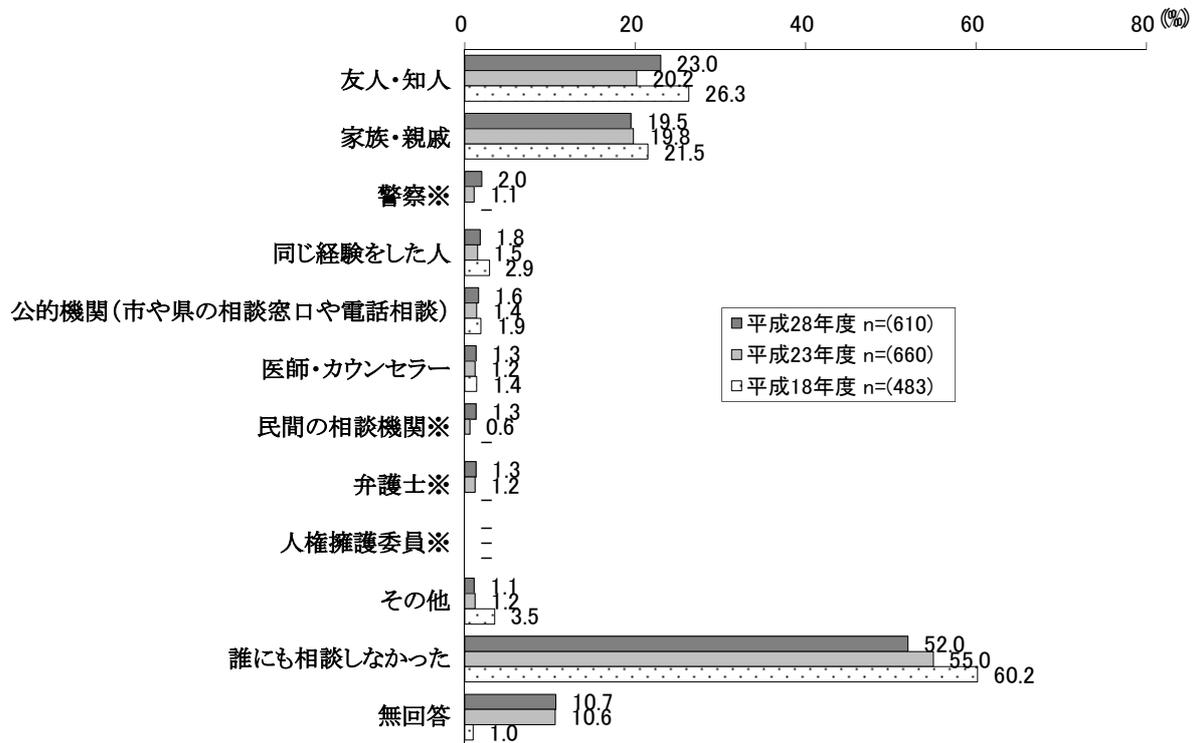
(問18で1つでも「1. 何度もあった」から「4. 1～2度あった」と答えた方に)
問18-1 誰かに相談しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。



暴力と思う行為を受けた際、誰かに相談したか聞いたところ、「誰にも相談しなかった」が52.0%と過半数を占めている。相談した人の中では、「友人・知人」が23.0%で最も高く、次いで「家族・親戚」(19.5%) となっている。

【経年比較】

平成23年度の調査結果と比べると、大きな変化はみられない。



※1 「警察」は平成23年度調査からの項目

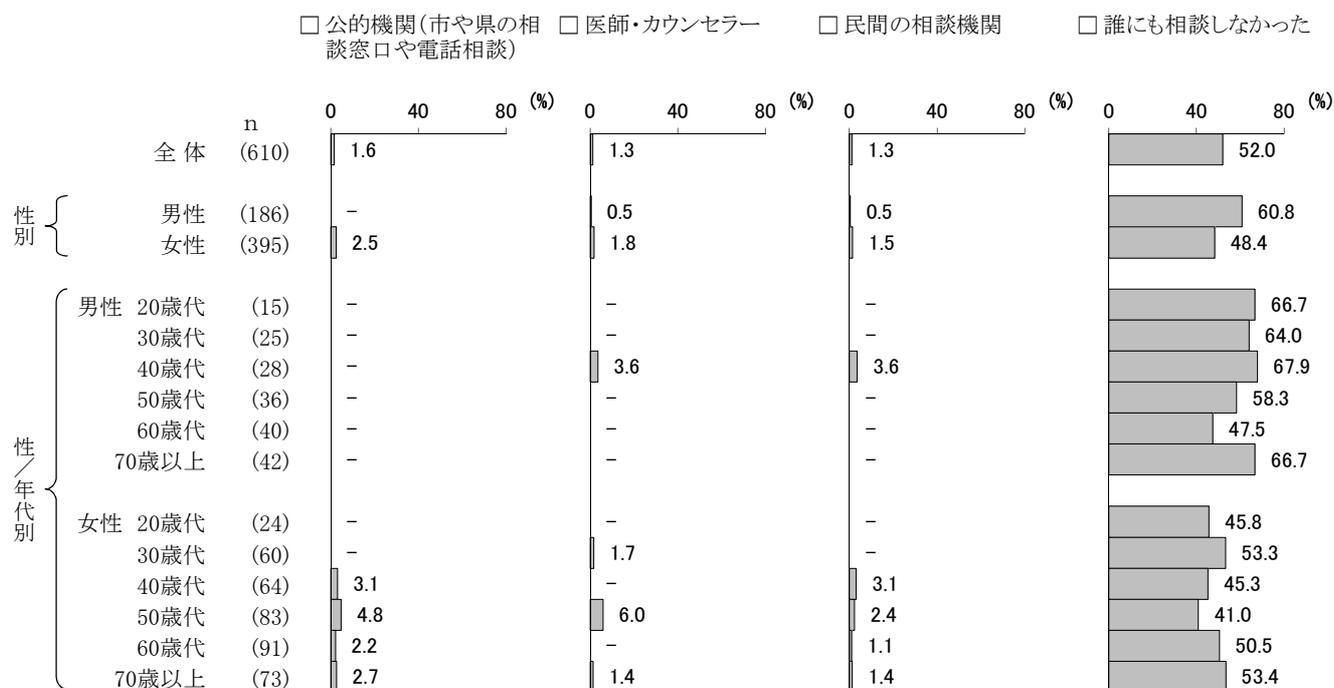
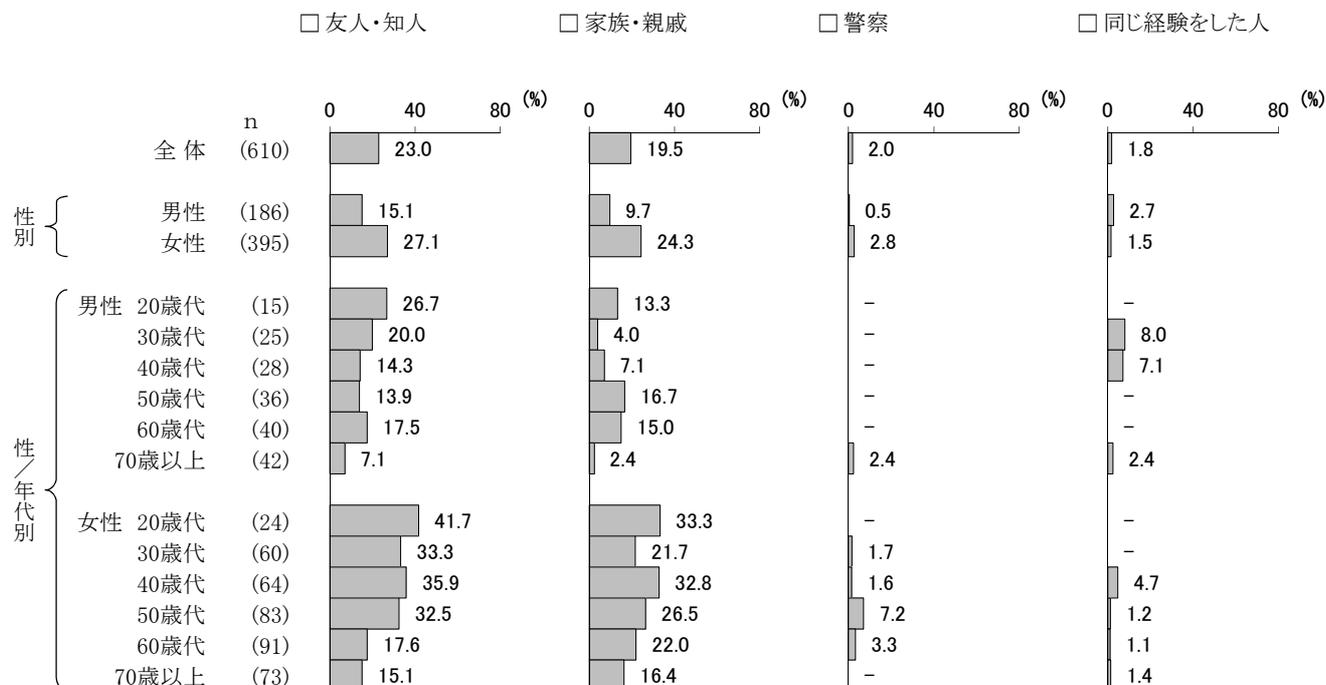
※2 「民間の相談機関」及び「弁護士」は平成18年度調査では「民間の機関（弁護士など）」

※3 「人権擁護委員」は平成18年度調査では「人権保護委員」

【性別・性／年齢別（上位7項目＋「誰にも相談しなかった」）】

性別で見ると、女性では「家族・親戚」が24.3%と、男性（9.7%）より14.6ポイント高くなっているほか、「友人・知人」（27.1%）も男性（15.1%）を12.0ポイント上回っている。

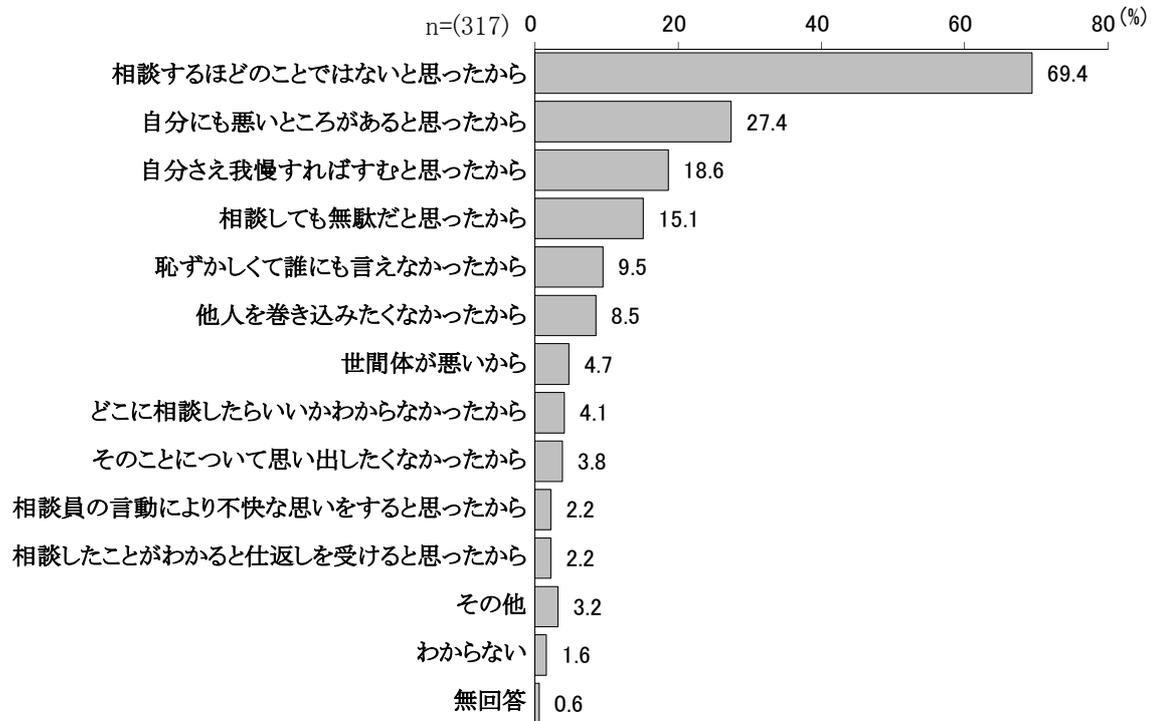
性／年齢別で見ると、男性では「誰にも相談しなかった」が、70歳以上で6割を超えている。女性では「友人・知人」が、30歳代から50歳代で3割を超えている。また、「家族・親戚」については、40歳代で3割を超え、他の年代より高くなっている。



(4) 「暴力にあたる」と思う行為を受けた際、相談しなかった理由

(問18-1で「11. 誰にも相談しなかった」と答えた方に)

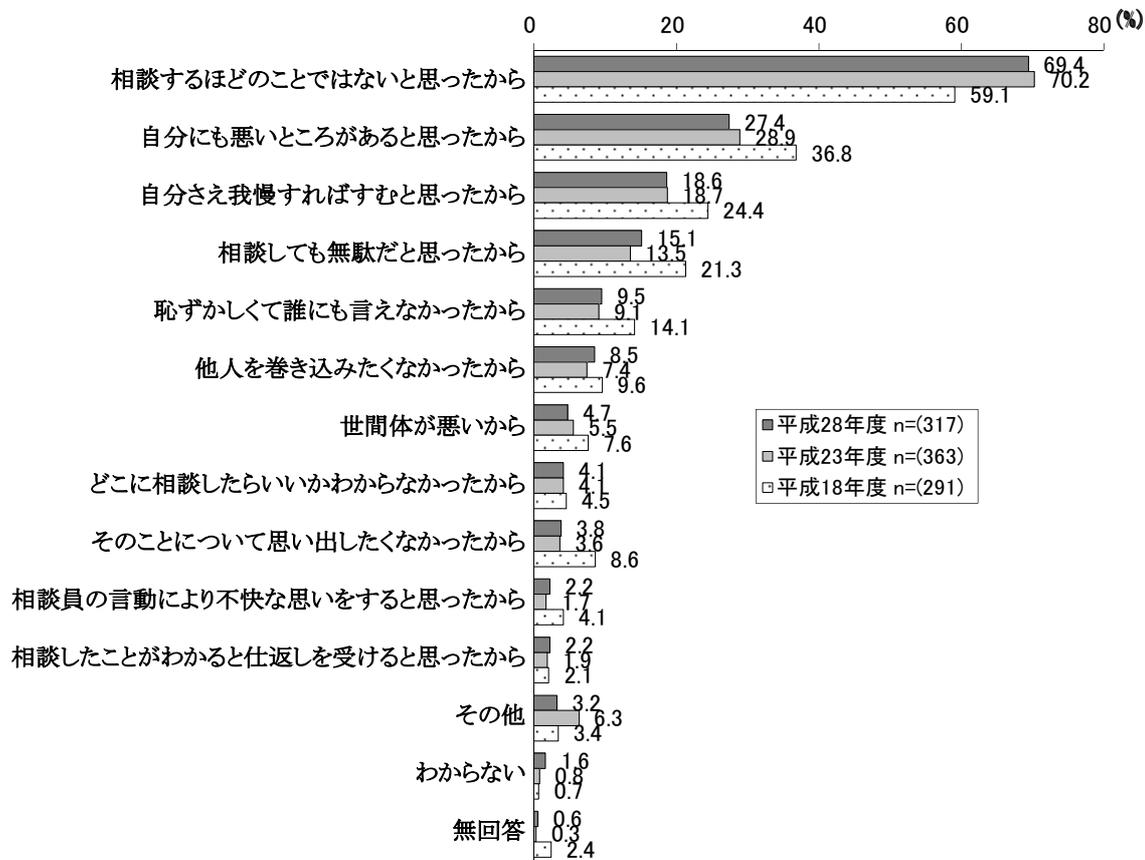
問18-1-1 相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべてお選びください。



暴力と思う行為を受けながら誰にも相談しなかった人にその理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が69.4%で最も高く、以下「自分にも悪いところがあると思ったから」(27.4%)、「自分さえ我慢すればすむと思ったから」(18.6%)、「相談しても無駄だと思ったから」(15.1%)の順で続いている。

【経年比較】

平成23年度の調査結果と比べると、大きな変化はみられない。



【性別・性／年齢別（上位8項目）】

性別で見ると、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が74.3%と、女性（66.5%）より7.8ポイント高くなっているほか、「自分にも悪いところがあったから」（30.1%）も女性（24.1%）を6.0ポイント上回っている。一方、女性では「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が11.5%と、男性（3.5%）より8.0ポイント高くなっている。また、「自分さえ我慢すればすむと思ったから」についても、女性（20.9%）が男性（14.2%）を6.7ポイント上回っている。

性／年齢別については、回答者数が少ないため、参考値として掲載する。

